

まつど未来づくり会議 会議録

分科会名：生活環境分科会（第2回）

開催日時：平成21年8月24日（月）13時～16時

開催場所：議会棟3階第2会議室

出席委員：草皆はつ代、郡司吉松、坂本学（分科会副会長）、高村裕、土田茂通、
中川文子、平賀義男（分科会長）、三嶋秀恒、渡邊滋子、戸張武彦、
布施優、遠藤高幸（敬称略、順不同）

欠席委員：橋本たき（敬称略）

事務局：白井宏之、田中千智（政策調整課）

【会議内容】

■ 分科会長挨拶

どのように会議を進めていいか悩んだが、市のほうですすめてもらえるそうなので安心した。資料を作成したので参照してください。事務局のみなさん宜しくお願いします。

■ 事務局説明（本日のねらい・進め方の確認）

- ・ 本日のねらい：「テーマ・政策に関する理解・探求促進」
- ・ 進め方：結論を出すのではなく、話し合いを通じて探求・理解を深めることを目的とし、第2回で話し合われた内容をもとに第3回以降で成果物を生み出していく。
- ・ 話し合いのルール
 - ⇒全ての意見に価値を置く
 - ⇒人の話をよく聴く
 - ⇒想いや考えは全体で共有する
 - ⇒時間厳守
 - ⇒未来に焦点をあてる

■ チェックイン：「今の正直な気持ち」や「気になっていること」などの想いを共有

■ 分科会へのメッセージ・エール・依頼文の確認

■ 第1回分科会で話し合った内容の確認

■ データ集を読んだの気づき・感想の共有

- ・ 政策14・弱みである地域防犯は地域全体で一体になって取り組む必要がある。
- ・ 地球温暖化に危機意識をもっている人がどのくらいいるのか知りたくなった。
- ・ 家庭から出るごみの減量化は頑張っているなと思った。
- ・ 災害に対する不安を減らす。未知なる物への恐怖。過去の災害から学ぶべき。
- ・ 地域とのつながりをもっと持つ必要がある。
- ・ 緑や花に親しむ。人と自然を大切にすることを必要とする必要がある。
- ・ 震災について、被害総数のサンプリングに基づいて対策をしてもらいたい。
- ・ 交通量が多い。自転車などの通路を用意してもらいたい。
- ・ エコバッグの導入。
- ・ 総合計画前期基本計画の目標の7割近く達成しているようだが、未達成部分の具体的な部分を知りたい。
- ・ 救急救命は、拠点病院の自立が必要と思う。
- ・ 全体的な視点から。松戸の人口の推移がある程度安定したと思う。
- ・ 地元の人と移り住んできた人とのコミュニケーションが大切。
- ・ 災害に対するものはよく頑張っている。行政としては評価されるべき。
- ・ 震災のことを考えると、天災が一度にやってくる可能性があるので対策を考えなければならない。町会に登録されてない方を外すというのもいけない。
- ・ AEDがほしいと思ってもどこにあるのかわからないから、コンビニなどに設置してほしい。
- ・ 緑と自然は、最低限今あるものは残しておこうと思う。
- ・ データ集を活かすには、町内会に知らせなければならない。おせっかいでも隣近所がわからないと危険なので、町内会の枠を小さくして行って災害対策をとるべき。
- ・ 町内会だけだと防災は難しいので、地域の人と市役所の連携をとる。
- ・ 来たころは30代だった住宅地は、今60代が中心になっている。
- ・ 隣近所との付き合いが面倒な人もたくさんいるが、呼びかけてコミュニケーションをとる。
- ・ マンションのエレベーターなども災害対策が必要。
- ・ 消防について、8分で着くと書いてあるが、20分経っても来なくて全焼した例を聞いたことがある。
- ・ 救急救命について、収容してくれる病院がなかなか見つからないケースがある。例えば、行き倒れの人を受け入れてくれない。どんな場合でも断らないような病院が欲しい。

- ・ AEDについては、町会でおいていくのはコストもかかり難しい。マンションに置くようなものを行政が助成してもらいたい。
- ・ 防犯について、ひったくりや空き巣などは、できる限りは町会が自分たちでという考え方をしていけないといけない。すべてを行政に頼ってはいけない。ただし、対策をしているところには何かしらの協力をして欲しい。
- ・ 緑を残す活動は、市民ボランティアがやっているが、さらなる活動が必要。
- ・ 自分たちの町は自分たちでよくするという意識が必要。
- ・ 震災のような大災害に対する準備が見受けられない。マニュアルや訓練が必要。地区別にそのような対策が必要。
- ・ 花と緑に関して、育つまでには何十年もかかるような木が切り倒されるのは防ぐことができないのかと思っている。
- ・ 千葉大の園芸学部が皆さんの努力によって移転が断念されたのは喜ばしい。
- ・ 局地的な集中豪雨がありますが、松戸にも水はけの悪い土地があるので注意すべきと思う。
- ・ 中部小学校の記事が新聞に出ていた。坂川がきれいになったので、どういう生物がすんでいるのか観察したらいい。黒トンボがいなくなったので、それを復活させようと中部小学校が取り組んでいる。だが、まだごみが結構浮いていた。松戸神社のあたりの坂川は綺麗だが、中部小学校前あたりは綺麗ではない。もっと上流に行けばごみがたくさん浮いている。ごみを所定の場所以外に捨てる人がまだまだいるのだなと思った。
- ・ 災害対策は、まだ不安に思っている人が多いんだなと思った。
- ・ 火災に関しては、住宅火災報知機はどれだけ設置しているのか実態がつかみづらい。
- ・ 市民が自分の身を守るためにどれだけ投資をするのかというところが気になる。
- ・ 環境に関しては、ごみ問題の解決がなかなか進まない。ごみ減量への意識は、ごみの有料化などの対策が必要なのでは。
- ・ 防犯に関して、夜の明るさの問題。こんなに明るい必要があるのか？エネルギー消費と防犯がアンバランス。
- ・ データ集は、市役所がきちんとやっているような文章になっており、かつこよすぎる。ずいぶん頑張ってくれるようになったが、ここまでかつこよくない。
- ・ 防犯灯は40ワット。小さい。100ワットなどは商店街など。
- ・ 救急救命に関する知識を得る。
- ・ 火災は、自助共助の意識を高めたい。

■ 対話セッション

- 地球温暖化防止に関してはあまり実感がわからない人が多い。今は省エネすると家計が助かるぐらいの感覚でしかない。
- 政策15に関して。家から一步出たところで緑があると癒しになるので、緑空間が近場があればリフレッシュできるので、そのような空間を大切にしていきたい。自分が残すというより、みんなが残してくれたらいいなということになる。実際は相続などで残すことが難しい。
- 地球温暖化について、松戸市の対応というものは相当遅れていた。やっと他市のレベルまで追いついてきた。
- 環境と緑の話は同じところの議論かなと思う。
- 環境というのは人間の心にすべて関係があるもの。道作り、河川などが整備されていることによって良い環境が成り立つので、ある事項が関係ないということはないと思う。
- 花を植えることは、花だけを植えているのではない。花を植えることによって、地域のコミュニティーをつくっている。それによって犯罪防止にもつながる、ということを教わった
- 公園に緑が欲しい。が、緑が生い茂ってしまうと犯罪になる。緑があっても人間の心ひとつで犯罪にもなってしまう。
- 防犯パトロールをしているが、空き家の草が生い茂ってしまっって近所が迷惑しているということもあるし、また、草が生い茂ってしまっって公園の電気が外に漏れない、というような点を防犯の観点から危惧している。
- 相続などがあると木を切らなくてはならなかったりするのが残念。
- コンビニの明かりについては賛否両論であるようだ。
- 個人が持っている林を手入れしてくれるボランティアが活躍してくれている。
- 個人の資産に関して相続があっても、緑を残していくことは難しいとは思いますが、行政が関与して緑を残すような方向に持って行って欲しい。
- ハイブリッドカーを購入したが、でも最終的には電気自動車が良いと思う。バッテリーが短いので、良いものができればいいと思う。
- 災害対策について、市役所の中では、各地域の中での職員の役割などを含めて、マニュアルができています。
- ホームページでハザードマップを見たが、具体的な分析がほしい。この地域はこのくらいの家が危ないといった、インパクトのあるデータがほしい。
- 具体的な被害想定を出すためには、個々の家を調べなければならないので難しいのではないかと
- 防災訓練を大掛かりにやるのは年1回程度だが、各地域、町会でも年に2回

はやらなくてはいけないのではないか。

- ・ 集まった避難所の強度がなければだめなのではないか。
- ・ 最初から屋根のある避難所に行くわけではない。災害があれば一度公園などの、ものが落ちてこないところに集まってからみんなで移動する。
- ・ 細かいシミュレーションをチェックしてゆく必要もあるのではないか。例えば、避難場所が河川敷の地域で、地震や洪水が一度に起きたらどうすればいいのかと思う。
- ・ 河川敷はある程度固めた土なので、おそらく大丈夫だろうとのこと。しかし、やはり地域のみなさんで一度一箇所に集まってから様子を見に行くべきだ。
- ・ 救急車の問題。たらいまわしは深刻な問題。行き倒れの人の身元がわからないと受け入れてもらえない。専門の医師が不在で受け入れてくれなかったところもある。24時間体制でどんな患者も受け入れてくれる病院を松戸にも作ってほしい。
- ・ 小学校での防災訓練も、職員が歩いて行って使える道を報告する訓練をしている。

- 投票：対話での探求を踏まえて、共有された課題意識・想い・具体的な期待の中から、特に重要だと思うものについてシールで投票した。
- 項目の中で市民として貢献できることや課題に下線をひいた。
- 以上の内容を整理したものが別紙

■ 話し合いの感想を共有

- ・ 松戸は道路が多く、災害時の避難場所に行く道は安全か、避難場所も安全なのか？
- ・ 大規模地震が発生しても、人的、物的被害の少ない街。
- ・ 老人の生活環境を考える。安心して住めるまちづくり。
- ・ 拠点病院の充実。
- ・ 身近なところにAEDを置いてもらいたい。
- ・ 省エネ、省資源についてもっと身近に。
- ・ ごみ減量化の意識を高めたほうがよい。
- ・ 自分自身が信念をもってしっかりとしないと先送りになる。
- ・ ライン（下線）が意外と多くついたなと思った。
- ・ これからのまちづくりは市民が主体的に。
- ・ みんなの具体的な視点が集まっていた。
- ・ CO2の問題にもっと取り組むべき。
- ・ 災害とか犯罪の課題は共通したものがあるなと感じた。

- ・ 市のほうが市民に関与すべき。
- ・ みどりを考えるのは人間の生活を考えること。
- ・ 建設的で前向きな意見が出ていて勉強になった。
- ・ 市民ボランティアの必要性が感じられる。

■ 次回の説明

ここまでの探求を踏まえて、私たちは何を実現したいのか政策テーマごとに検討し、「目指したい姿の宣言文」を作成する。

■ チェックアウト

以上

政策	想い・課題意識	具体的な期待
<p>10 災害に対する不安を減らすようにする</p>	<p>○安全で安心して暮らせる街づくりに向けて、現在の松戸市の方針と地域の格差について考えていきたい。災害の細かなハザードマップ等市民に知らせるべき。 ○松戸は道路が狭く、災害時の避難場所に行く道は安全か、避難場所も安全なのか？ ○災害がおきた場合、江戸川は基本的に本当に安全な場所であるかを調べてあるのでしょうか。 ○大規模地震が発生しても、人的、物的被害が少ない街。 ○大規模地震による被害想定からの具体的な対策が見えない。(6票) ●震災に対する被害を想定する層別サンプリング調査結果により現状の見直し。(2票) ●被害想定に基づく具体的避難場所、インフラ、備蓄品等の確認(3票) ●交通量の多い狭い道路の電柱の地下代による歩行者通路の確保 ●災害対策 →松戸は全国的にも防災意識が高いが、もっとハード面での充実を！(1票) ●自主防災組織の結成率は86.5%と高い。運営と活用を考える ●災害時に対する準備(マニュアルと訓練)が必要(全市、地区別)(2票) ●災害時の地域消防の役割、消防団の役割について(2票)</p>	<p>●災害は一度に発生する場合を考えると、現在出来ている対策では不十分です(洪水・火災・地震)。その対策を考える。近所のように小さい集団で。(2票) ●防災意識については環境の整備など問題点が多いと思う。(1票) ●集合住宅に住み、高齢者が多区になって速やかに避難できるのか？(1票) ●災害に対する不安を減らす。 →未知のものへの恐怖→過去の災害から学ぶもの</p>
<p>11 火災等の災害から市民生活を守る</p>	<p>○大地震災害発生＜対応準備が必要＞＜マニュアルづくり＞ ●火災→自助共助への意識を高めたい。(1票) ●火災による死者をなくすための具体的な施策はあるが、日常的な投資がなされていない。 ●住宅への火災報知機設置の推進、市による助成</p>	<p>●火災等の災害から市民生活を守る。 →隣近所にどんな人が住んでいるかよく知らない。→地域でのコミュニケーション</p>
<p>12 救急救命が必要になった市民の生命をつなぐ</p>	<p>○市内同じサービスを受けられる救急救命。(1票) ○老人の生活環境を考える。安心して住める街づくり。(3票) ○救命に対する行政だけの限界。(4票) ●救命救急→拠点病院の充実が必要。(6票)</p>	<p>●救命救急については受け入れ病院をもう少し考えてほしい。(6票) ●地域ごとにAEDの設置を望む(1票) ●救命救急は身近なところにAEDを置けないだろうか？(2票) ●救命救急→「火事ですか？救急ですか？」→迅速な措置が命を救う→救命救急に関する知識を得る</p>

政策	想い・課題意識	具体的な期待
<p>13 環境にやさしい地域社会をつくる</p>	<p>○地球温暖化は着実に進んでくる。人の努力以上に！ ○総合計画の基本構想第4節は修正の必要有り。地球環境変化は激変してきている。 ○地球温暖化による天災は多くなり、対応・対策していく必要あり。(1票) ○松戸市として地球温暖化防止施策は遅く、今後スピードアップする施策を。(1票) ○環境保全を前提として、松戸市の活性化を目指すなかで、今後、近い将来超高齢化が考えられるので、街並を高齢の方に安心して外出できる街づくりができるための方策。 ①街(市内)循環バスの運行。②商店街に木陰、ベンチ等、休む場所づくり。③バリアフリー化。(3票) ●環境→省エネ、省資源について、もっと身近に。ごみ減量化を。(4票) ●強み、弱み「懸念事項」の中身が不明。 ●エコバッグ導入の推進(意識改革)(1票) ●市立病院建替に伴う大規模太陽光発電の導入社会の先導的役割を担う。(2票) ●市役所の率先的規範の項が良くやっていると感じる。市民が調査申し入れたら拒否された ●地球温暖化への危機意識を持っている人の割合、減CO2削減に努力している人の割合を知りたい。(4票) ●ごみの有料化、新エネルギーの製造(1票) ●人口の推移がある程度落ち着いているものと考え、未来への改革がやり易い面、従来から住んでいる方と移り住んだ方とのコミュニケーションがスムーズに行くことでコミュニティづくりが成立すると思いますので、目標に向けての構築は地域住民の連携コミュニティの確立が大切だと思います。(1票) ●(124～125頁に関して)市の実施している印象が強いが、ここ2年の話。 ●CO2を減らすことは、個人、家庭からではと考えます(3票)</p>	<p>○省エネから、エネルギーを作ることができる街(1票) ○環境を推進するための道路、公共交通の整備 ○地球温暖化、緩和。(削減)、(賢い適応)、(中期的にどう対処)。 ○電気自動車、ハイブリッド車が安価に購入できる制度。(3票)</p>
<p>14 犯罪や事故のない安全で快適な地域社会をつくる</p>	<p>○生活の安全に関することは、各種団体の持つ目的が一つであるとすれば、団体わくを考えずに、皆が一緒に利用できることを考えたと思います。 ○子どもたちの安全。 ○治安、防犯の強化。ソーラーシステムの導入。環境。地域パトロール。災害時の連絡関係。町内会の防犯パトロール。遊休地利用。 ○以前、自宅が空き巣に入られた。犯罪のない街、起きにくい街。 ○安全、安心の暮らし。 ○安全・安心のまちづくり。＜ポイ捨て、迷惑行為禁止！＞ ●犯罪や自己自主防犯組織づくりがほしい(1票) ●犯罪・事故を防ぐために予防策を考える。団体わくをはずそう関係者が、ひとつになる(6票) ●犯罪や自己のない安全で快適な地域社会→遠くの親戚よりも近くの他人→おせっかいでも地域で守る安全安心(1票) ●自分たちの街は自分たちで守る。それ以上のことは行政と協力してやっていく。(3票) ●防犯パトロールの強化。地域パトロール。町内会の役割増加が必要。(2票) ●防犯と環境のバランス</p>	<p>○地域内でのつながりが大切。声かけ。(3票) ○子どもを守る防犯対策。＜市民パトロール実施＞(1票)</p>

政策	思い・課題意識	具体的な期待
<p>15 緑と花に親しむことができるようにする</p>	<p>○緑花清流のふるさとづくり<実現に向けて!>(5票) ○自然環境を守り、みどりを大切にしたい。<みどりを守る仲間づくり>(1票) ○みどりを守る<市民ボランティアづくり><市民の力で守る> ○緑と環境保全。 ●みどりを残す、保全する活動(11票) →市民ボランティアが着実に増加 →行政も積極的に取り組んでいる →更なる活動が必要 ●花と緑 →市民一人ひとりが意識を持ってほしい ●緑と花に親しむことができる。(1票) →人、自然を大切にす心 →住んでよい街、訪ねてよい街</p>	<p>●市民ニーズ調査(2票) 地域活動やボランティアへの参加が減少している、参加比率が低い →自分たちの街は、自分たちでよくする意識 ●緑と花に親しむことができるようにする(0票) →緑や花はコミュニケーションの拠り所 →地域で育てる松戸の緑 ●緑と自然を残す。現在ある緑は大切にしよう(2票)</p>
<p>その他</p>	<p>○快適で安全な街。(1票) ○地域で支える街。 ○生物多様性の確保、多様な生物と共存。<環境づくりが必要>(2票) ○安心して住める街。 ○誰もが共通に認識できる街。 ○安全で →防災、防犯 快適な →人と生き物にやさしいまち(4票) 生活環境 ↓ 松戸らしいまちづくり の実現→①ハード面(整備) もの ②ソフト面(管理) 人 ↓ どんな運用(仕組み)を作る? ●総合計画(前期) →達成値が大概7割の良い数値が出ているが、未達成の部分は何のようなものが上げられているか</p>	